

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 八幡小学校 学級数 15

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

思いやりの心で助け合う子 ～自分で考え、みんなで取り組む楽しさを～

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

◎ 学力向上に向けた組織的な取組 ～一体感のある学校 オール八幡～

- 充実した教育活動をするため、適切な評価を行い、課題の把握と改善
 - ・学力テストの結果を分析し学習指導の改善を図る。
 - ・分析結果を本校の傾向としてとらえ、重点単元や課題を明らかにしながら指導計画を検討し実践に努める。
 - ・学習状況調査などをもとに、「家庭学習の手引き」を作成し、保護者へ家庭における学習及び生活習慣改善の啓発に努める。
 - ・単元内、週1回などコース別学習を設定し、実態に応じて定着・深化・補充を図る。
 - ・4年生以上の学年でTTを活用する。
 - ・個別学習の場を設定し、児童支援を中心に、学習支援を実施する。
- 校内研究の充実
 - ・研究部と連携を図り、学力向上の取組に務める。
 - ・学力テストの分析から課題を明らかにし、課題とする領域について、研究を深める。
 - ・一人一授業の授業公開を行い、授業改善を図る。（わかる授業づくり）
 - ・学習常規の共通理解～研究部～
 - ・ノート指導の充実
 - ・全員が主体的に参加する協働体制による校内研究を推進するためにワークショップ型の研究協議を取り入れる。
 - ・校外研修へ積極的な参加（南セ講座への全員参加）還流。
- 家庭・地域における学びとの連携
 - ・家庭学習の手引きを作成し、家庭学習の習慣化を図るとともに、自学自習のスタイルを身に付けさせる。（宿題+家庭学習ノートの指導）
 - ・校内研究テーマに基づく授業公開を行う。
保護者、地域への授業公開（教育の日）外部から多様な意見を取り入れる。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・単元のコース別学習を設定し、実態に応じて定着・深化・補充を図る。

(成果) →子どもの実態に応じて、コース別学習を行った。

「苦手な学習に定着が図られた。」「自分のスピードに合わせて学習ができる。」
「難しい問題にも、挑戦することができた。」など、子ども一人一人が学習に意欲をもち、学習の定着が図られた。

- ・学力テストの分析から課題を明らかにし、課題とする領域について、研究を深める。

(成果) →課題のあった「図形」と「量と測定」の領域に対し、校内研究を深めた。

研究部を中心に、学び合いの充実と指導の工夫を図った授業改善をおこなった。子どもたちは、意欲的に学び、基礎・基本の定着が図られた。

- ・個別学習の場を設定し、児童支援を中心に、学習支援を実施する。

(成果) →放課後や長期休業中の個別指導の時間を全校体制で保障し、子どものつまずきを知り、一人一人の子どもに効果的に指導することができた。その結果、定着が図ることができた。

- ・校内研究テーマに基づく授業公開を行う。

(成果) →全校で校内研究に基づく、授業参観を行った。保護者は、いろいろな学年の取り組みを参観した。校内研究の取り組みを地域に発信することができた。

○ 教育課程検証の方法

- ・校内研修で「八幡小の子どもの成果と課題」について、KJ法で話し合い明らかにした。学校の方向づけとしてまとめた。共通理解をし、取り組めることを実践していきたい。

- ・保護者アンケートを集計し、それを参考にしながら、学校評価をおこない教育課程の改善にいかしていく。